

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券…取得価格によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

① 退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。

なお、前期末においてこの要支給額に相当する金額が計上されているため、当期は計上しない。

② 賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前 期 末 残 高	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	当 期 末 残 高
基本財産				
定期預金	19,000,000	0	0	19,000,000
投資有価証券	11,000,000	0	0	11,000,000
小 計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	8,602,350	2,697	1,204,776	7,400,271
20周年事業開催積立資産	1,737,147	159,890	0	1,897,037
小 計	10,339,497	162,587	1,204,776	9,297,308
合 計	40,339,497	162,587	1,204,776	39,297,308

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当 期 末 残 高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	19,000,000	(19,000,000)	—	—
投資有価証券	11,000,000	(11,000,000)	—	—
小 計	30,000,000	(30,000,000)	—	—

特定資産				
退職給付引当資産	7,400,271	—	—	(7,400,271)
20周年事業開催積立資産	1,897,037	—	(1,897,037)	—
小計	9,297,308	—	(1,897,037)	(7,400,271)
合計	39,297,308	(30,000,000)	(1,897,037)	(7,400,271)

4 固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。(単位：円)

科目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
リース資産	4,620,000	1,848,000	2,772,000
計	4,620,000	1,848,000	2,772,000

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益は、次のとおりである。(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価格	時価	評価損益
基本財産 利付国庫債券第105回6月債	11,000,000	11,051,700	51,700
計	11,000,000	11,051,700	51,700

6 補助金等の内容並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内容並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
立山カルデラ砂防 博物館人件費負担金	立山町	0	2,594,151	2,594,151	0	—
	富山市	0	2,594,151	2,594,151	0	—
計		0	5,188,302	5,188,302	0	—

7 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内容	金額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息による振替額	26,750
計	26,750

8 その他 公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

リース取引関係 … リース資産の内容は、次のとおりである。

所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1件当たりのリース総額が300万円を超えるもの)

立山カルデラ砂防博物館LAN用機器リース一式 1件